2018年　ハローアルソン･フィリピン医療ボランティア

日時　：　2018年2月8日～11日

場所　：　フィリピン共和国　マニラ市　近郊スラム

参加者

・医師	１名	・学校教員	２名
・歯科医師	２０名	・一般参加者	１０名
・薬剤師	３名	・高校生	４６名
・看護師	４名	・中学生	４名
・歯科衛生士	１４名		
・歯科技工士	４名		
・歯科助手	６名		

現地参加者・・・114名

現地通訳・・・・20名

現地スタッフ・・約100名

総勢・・・・・・約234名

物資配布総数・・・・・　580名（歯ブラシ10本・タオル2枚・石鹸2個　お米2キロ）

【１日目】

２月８日（木）

７：１５　　成田空港集合

９：３０　　出国手続き・成田出発

１３：３５　フィリピン到着・活動場所へ移動 物資支援活動

２０：００　ホテルチェックイン後全体ミーティング

宿泊：センチュリーパークホテル

【２日目】

２月９日（金）

７：００　　活動場所San Rafael Villageへ出発

９：００　　医療奉仕活動・歯科医療奉仕（物資及び歯科啓蒙を含む歯ブラシの配布）

１５：３０　マニラへ出発

２１：００　夕食後　高校生：ミーティング、医療関係者：器材準備

宿泊：センチュリーパークホテル

【３日目】

２月１０日（土）

７：００　　活動場所　Brgy.pineda pasigへ出発

９：００　　医療奉仕活動・歯科医療奉仕（物資及び歯科啓蒙を含む歯ブラシの配布）

１５：３０　マニラへ出発

２１：００　夕食後　高校生：ミーティング　（器材片付け）

宿泊：センチュリーパークホテル

【４日目】

２月１１日（日）

７：００　　活動場所へ出発

９：００　　物資支援活動　カビテ市　サマラ・マルケス　バスケットコート

１２：００　空港へ出発

１４：５０　出国手続き・フィリピン出発

２０：００　成田空港

物資配布	２月８日	２月１１日	計
物資配付数	８０	５００	５８０
物資配布内容	ハブラシ８本・石鹸２個・タオル２枚・お米２kg		

医療奉仕活動	２月８日	２月１１日	計
クリーニング	１４２	２９１	４３３
保存	４８	４８	９６
抜歯	１７１	２９０	４６１
義歯	１１	１４	２５
耳鼻科	５２	５８	１１０
シャワーブース	１８６	２６０	４４６
投薬		1	1
その他		5	5
合計人数	６１０人	９６７人	1,５７７人

当院で1年間に集まった物資数

歯ブラシ　1590本

タオル　286枚

石鹸　222個

ノート　197冊

えんぴつ　321本

募金　67,597円

活動報告

2月8日　活動初日　物資配布活動　「719 Zone 78 District 5 Venue」

物資配布人数・・・・・80名

　例年、空港に到着するとホテル周辺のスラムで物資配布の活動をおこないます。
私たちが訪れた地域は、マニラ市内のほぼ中心部に位置し、近くには動物園もあります。周囲はたくさんのビルに囲まれており、一見とても華やかに見えますが、１歩路地に入ると無数の電線がはびこる都会のスラムならではの風景が見えてきます。
ここでは８０名のお年寄りたちに上記の物資を高校生たちが直接手渡すことができました。

2月9日　活動2日目　医療奉仕活動初日「「San Rafael Balut : Tondo」

患者人数・・・・・610名

　この地域は「トンド」と呼ばれています。ここは1980年代後半「フィリピンの貧困の象徴」と言われたゴミの収集所「スモーキー・マウンテン」が存在していた場所です。
フィリピンでは日本のようなゴミの焼却システムはなく、ここには毎日マニラ市内から数千トンのゴミが運ばれてきて埋め立てられていました。そしてそのゴミの中からお金に換金できるものを拾い生活をしている人々を「スカベンジャー」と呼び、今でも多くのスカベンジャーが住んでおり、川沿いには無数のスラムの住居が存在しています。
　私たちがこの地域で活動するのは今回で3回目となります。約4万人の人たちが生活をしており、住民たちは主に工場勤務が多く一日の収入は約300ペソ（日本円約620円）で食事は主に昼と夜の2回です。

　ここではスラムの中心に位置する教会を治療会場として使わせていただきました。信仰心の厚いフィリピンの人たちの神聖な場所で初めて行われる医療ボランティアに沢山の人たちが列をなしています。事前に現地スタッフがこの地域で最も貧しい家庭を調査しその家族から一人だけ治療を受けることができる「チケット」を配布しています。
　各担当ブースにわかれ、現地統括責任者今西先生の号令のもと治療が始まり、高校生たちも初めて見る光景に戸惑いながらも一生懸命活動していました。

2月10日　医療奉仕活動最終日　「Brgy .Pineda .Pasig City」

患者人数・・・・・967名

　　この地域は川沿いにマカティと呼ばれるフィリピン第二の商業都市に近接しています。大きな川に分断され向こう側には、たくさんの高層ビルが立ち並び貧富の差が歴然と分かるエリアです。
　　マニラ市内は世界的にみても大変渋滞が多い街です。しかし、マニラ・ロータリークラブと地元警察が協力をくださり、白バイ４台と救急車が私たちのバスを先導してくれました。そのおかけで１時間以上かかるエリアもわずか３０分ほどで到着し、予定よりはるかに早く治療が開始できました。

　　ここでは地域内の小学校にあるバスケットコートを治療会場としました。　昨日同様、今回の活動は大変「抜歯」が多いのが特徴です。それはそれだけ貧困状況が深刻であり重度な症状の患者さん等が多いことを意味しています。スラムの人たちがもし歯が痛くなった場合どうするのか聞くと、この地域には無料の歯科クリニックがないために治療を受けることはできず、痛み止めは高価なために漢方薬のようなハーブティを飲んで我慢をするそうです。
　　また、義歯の作製を希望する方も多く、例え抜歯をしたとしても一つの義歯を作るのに数千ペソ必要となるためスラムの人たちにとって義歯は大変貴重なものとなっています。しかし、私たちの活動にも限界があります。特に義歯制作ブースでは4人の歯科技工士が昼食の時間も惜しみながら一生懸命制作してくれました。

2月11日　活動最終日　物資配布活動　「Kaingen Kawit . Cavite」

物資配布人数・・・・・500名

この地域は私たちが10年以上支援させて頂いているエリアで、私たちの数十年来の友人でもあり日本からの物資を大切に保管し、活動中は現地通訳として長年支えて下さるポンセ家の人達が住むエリアです。今回、同じ地域内の新たなバランガイ（集落）の人たち500名に皆さんから頂いた物資を届けて参りました。

この地域には約3,000人が住んでいます。就学率はわずか5～10％で小学校までで、親に仕事がないために中学校以上に進学するこどもはほとんどいません。住民たちは主に漁業や建設現場などで生計を立てていますが、一日の収入は約300ペソ（日本円で約660円）程度です。食事は1日1回～2回で私たちが支援した物資、特に石鹸などはとても貴重なものだそうです。

ここでは高校生たちが最後の物資配布をしました。たくさんの人たちが長蛇の列を作っています。高校生たちは日本から皆さんに支援していただいた物資を一人ひとり丁寧に笑顔で手渡してくれました。私は一人物資を抱いた女性に尋ねました。「今日もらったお米はどうするの？」彼女は嬉しそうに「もちろん今日食べるわ。このお米はとても美味しそう。」私は尋ねました。「この石鹸は？」「今日すぐに子供たちの体を洗ってあげるわ。」彼女は満面の笑みを浮かべながら「来年も必ず来てね。」と言い残しまたスラムに帰って行きました。

ここでは高校生たちが最後の物資配布をしました。たくさんの人たちが長蛇の列を作っています。高校生たちは日本から皆さんに支援していただいた物資を一人ひとり丁寧に笑顔で手渡してくれました。私は一人物資を抱いた女性に尋ねました。「今日もらったお米はどうするの？」彼女は嬉しそうに「もちろん今日食べるわ。このお米はとても美味しそう。」私は尋ねました。「この石鹸は？」「今日すぐに子供たちの体を洗ってあげるわ。」彼女は満面の笑みを浮かべながら「来年も必ず来てね。」と言い残しまたスラムに帰って行きました。

新しい取り組み「シャワーアクティビティ」

今年から新たな取り組みとして、5才～10才の子供太一を対象に「シャワーアクティビティ」を行いました。これは地元マニラ・ロータリークラブの協力を得て消防車を利用し、スラムの子供たち皆さんからいただいた石鹸やシャンプー・タオルを使い、体や髪の毛を洗ってあげる活動です。

スラムの子供たちは、日本のように毎日きれいな水を使って体を洗うことができません。汚水や雨水をため、時にはスコールが降ると天然のシャワーとして一斉に外に飛び出して体を洗うほどです。また、石鹸は貴重な生活物資のため頻繁に使うことができません。そんな子供たちのために看護師・介護士を中心に、高校生も手伝い446名の子供たちを洗ってあげることができました。2つの簡易シャワーブースを作り、長蛇の列ができみんな嬉しそうに久しぶりのシャワーと楽しんでいました。

今年も皆様の温かいご支援のおかげで素晴らしい活動となりました。たくさんの募金や歯ブラシ・タオル・ノート・えんぴつ。本当にありがとうございました。
これからも私たちは皆さまが物資支援に込めて下さるやさしさの心をしっかりと彼らに届け誠心誠意、恵まれない人々のため頑張っていきます。

今後とも、どうか温かいご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

ハローアルソン・フィリピン医療を支える会

きもと・まなべ歯科クリニック　　木本　英昭